

水稲水管理等を最適化する 水田センサ利用モデル開発が始動！

当センターでは、多収で高品質な業務用米を省力的に生産するため、水田センサと営農・ほ場管理ツールを用いた新たなモデルづくりを目指して研究を始めました。

【背景・目的】

低コスト、省力化、業務用米ニーズとのミスマッチ等が課題となっている現在の水稲栽培において、当センターでは、省力的に多収で高品質な水稲生産ができるように、水田センサ利用モデルの開発に取り組んでいます。

【実施内容】

現在、気温ばかりでなく今までわからなかった土壤水分や地温等の細かな栽培環境の把握を行っており、生育・収量データを集積しています。平成30年度の試験では、登熟期の水管理方法を4種類設定し、土壤水分、水温、水位が測定できているかを確認し、水管理方法と収量・品質との関係を分析しました。

※水田センサ：水田の水位や水温等の栽培環境をリアルタイムに観測・記録する装置

パディウォッチ：農地の気温、湿度、水位、水温等を観測・記録する装置

フィールドサーバ：農地の土壤水分、地温、EC等を幅広く観測・記録する装置

※ほ場管理ツール（アグリノート）：農場を航空写真マップで可視化し、農作業・ほ場管理など、経営強化に利用する営農支援システム

この取組は、ウォーターセル（株）、（株）NTTドコモ社様の協力の下で実施しています。



ほ場管理ツール
（アグリノート）



パディウォッチ

左：PW-2300 水位・水温を計測

右：PW-1300 気温・湿度・水位・水温を計測



フィールドサーバ (FS-2300)

土壤水分・地温・EC等を計測

問い合わせ先：栽培研究部作物科（担当：川岡達也・荒木卓久）

TEL 0853-22-6946

E_mail:nougi@pref.shimane.lg.jp